

令和元年9月5日 開会

令和元年 第3回 東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

議員一般質問 目次

令和元年 第3回 定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	阿部 とし丞	1 小学校卒業式の服装調査を問う	3
第2位	石森 晃寿	1 復興事業について	4
		2 シジミを活用した水産・観光振興について	5
		3 看護師、介護福祉士等の確保について	6
第3位	五ノ井 惣一郎	1 赤井南区西地区センターの駐車場の整備を図れ	7
第4位	熊谷 昌崇	1 高齢者ドライバー対策について問う	8
		2 消防団車両のオートマチック（ＡＴ）化を推進すべき	9
第5位	齋藤 徹	1 本市学力向上の現在の成果と今後の対応について	10
		2 東松島オルレと県観光キャンペーン下半期との連携について	11
第6位	土井 光正	1 加速する高齢化時代に向けた自動車免許証返納による交通網整備対策および認知症対策についての取り組みを万全にせよ	12
		2 市道（砂利道）の舗装整備の推進で住みよいまちを確立せよ	13
		3 国産乳児用液体ミルクを災害備蓄食品として配備せよ	14
第7位	小野 幸男	1 今後のまちづくりについて	15、16
		2 防災課所管について伺う	17
第8位	滝 健一	1 子供の健やかな成長のために	18、19
第9位	熱海 重徳	1 J R 東矢本駅における諸課題について	20

順位	氏名	件名	頁
第10位	櫻井 政文	1 子供の貧困対策について	21
		2 小中一貫教育について	22
第11位	手代木 せつ子	1 夏まつりの今後の在り方について	23
		2 「ランドセル重過ぎ問題」について	24
第12位	長谷川 博	1 子育て世帯の国民健康保険税の負担軽減について	25
第13位	阿部 勝徳	1 本市農業の諸課題について	26、27
		2 名水「太郎坊清水」の復元を	28
第14位	小野 恵章	1 人口減少対策と商店街活性化について	29
第15位	佐藤 富夫	1 事後審査型入札方式による事務の合理化を提案する	30
		2 S D G s に関連して、災害買取元地の活用を提案する	31

【質問者数 15 人・質問件数 26 件】

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>1. 小学校卒業式の服装調査を問う</p>	<p>東松島市の小学校の卒業式での服装調査については、幾度かマスコミでも取り上げられ話題となった。7月に市教育委員会は、保護者と教職員を対象に実施した服装に関するアンケート結果を公表した。</p> <p>保護者の7割近くが洋装を支持、和装は1割にとどまったとのことである。</p> <p>そこで、調査結果について市長、教育長に問う。</p> <p>(1) アンケートの回収率、86.1%について、どのように考えるか。</p> <p>(2) 洋装支持が66%であり、その理由に「歩行や所作がしやすい」等である。市長、教育長はこの結果をどのように捉えているか。</p> <p>(3) 昨年度の卒業式は、全8校のうち赤井小学校と鳴瀬桜華小学校は和装の児童がいなかったとあるが、そのことについて市長、教育長の見解はいかに。</p> <p>(4) 自由記述が新聞に掲載されていたが、小学6年生だけでなく、小学生を持つ親があその時に何を心配に感じたと思うか。</p> <p>(5) 各校ごとに、今後あるべき姿として保護者が考えるべきと結論が出ていたが、制服導入についての項目も入れるべきではなかったか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>1. 復興事業について</p>	<p>自由民主党、公明党の両党は、令和2年度末に設置期限を迎える復興庁に関し、当面存続させる方針を明記した。政府は、提言を尊重した基本方針を年内に策定し、令和2年の通常国会に関連法案を提出する。一方で存続期間や財源措置に関しては、コメントがない。</p> <p>東松島市もこれまで復興のトップランナーとして、被災者の生活再建を重点にハード、ソフトの復興事業を進めてきた。政府が基本方針を策定するまでの時間は、限定されている。</p> <p>市長は、復興・創生期間後も中長期に取り組む事業を早急に要望書に反映し、復興財源の確保に努めるべきと考える。以下の4点について伺う。</p> <p>(1)被災者の心のケア対策や見守り・生活支援について。</p> <p>(2)市で取得した移転元地周辺の民地購入を含めた画地内の環境整備について。</p> <p>(3)災害公営住宅に入居し、収入超過などにより、明け渡しを余儀なくされている入居者に対する災害公営住宅の払い下げについて。</p> <p>(4)現行の被災者生活再建支援制度および被災住宅再建支援事業は、被災者が、災害公営住宅に入居した後に、被災者のいろいろな事情により個別移転、集団移転したいと希望しても、一度再建したら完結とみなされ、救済されない、もう少し被災者に寄り添った柔軟な対応について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>石 森 晃 寿</p>	<p>2 . シジミを活用した水産・観光振興について</p>	<p>本市は、鳴瀬川、吉田川の一級河川がある。この河川を利用した、水産・観光振興の施策が、少ないように感じる。市長は、どのように感じているか。</p> <p>40年前までは、子どもから大人まで、シジミ取りをしていた。また、なりわいとして、取っている人もいた。最近では、取っている人は、ほとんど見られない。</p> <p>一番手短で、投資が少ない水産・観光資源として、シジミの稚貝を放流し、育て、取らせる考えは、いかがか。以下の2点について何う。</p> <p>(1)シジミの生息調査について。</p> <p>(2)シジミの生息が可能な状態であれば、稚貝を放流し、育て、取らせる考えはあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>石 森 晃 寿</p>	<p>3. 看護師、介護福祉士等の確保について</p>	<p>今後、医療や介護のニーズは、ますます高まることが考えられる。</p> <p>医療や介護の現場では、市民のニーズに答えるべく、医師、看護師や介護福祉士等の確保に日々努めている。幸い医師の確保は、どうにかできているが、看護師、介護福祉士等の不足により収容定員に達していないのに、受け入れができない状態になっている。</p> <p>したがって、看護師、介護福祉士等の確保が緊急課題となっている。以下の3点について伺う。</p> <p>(1) 看護師・介護福祉士等を養成する専門学校の誘致について。</p> <p>(2) 市内高等学校の看護科の新設について。</p> <p>(3) 市内の医療・介護施設に勤務した場合の看護師、介護福祉士等の奨学金返還支援事業助成金の拡充について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 赤井南区西地区センターの駐車場の整備を図れ</p>	<p>航空祭、夏まつり、各地区のまつりも猛暑の中、盛況に開催された。特に航空祭には、車での来客は予想以上で駐車場はあふれていた。</p> <p>市内各地区センターや集会所でのまつりも自治会役員、地区住民の協力の中、まつりを通じてコミュニケーションが図られた。</p> <p>赤井地域全体のテーマである「オラが古里赤井はひとつ」を合言葉に、約500世帯の地区住民が一体となり活動している自治会の拠点である赤井南区西地区センター（南赤井地区学習等供用施設）は昭和50年代に建設され、老朽化が進んでいるRC造の学習等供用施設である。これまでも修繕しているが、今も雨漏りしており、集会室にはバケツが用意されている。</p> <p>さらに、車社会の昨今、駐車場は狭く、石ころだらけであり、利用者からは行政の対応に不満の声が上がっている現状である。地区では、駐車場整備の要望嘆願書の声もある。その前に早急に調査し、整備すべきであるが考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>熊谷 昌崇</p>	<p>1. 高齢者ドライバー対策について問う</p>	<p>昨今、アクセルとブレーキの踏み間違えをして悲惨な事故が起きたというニュースをよく聞く。高齢化社会における全国的な問題である。その対策として、東京都や福井県は高齢者を対象に急発進抑制装置補助や宮城県内においても運転免許証の自主返納者への支援施策の実施を行っている自治体や企業が増えてきている。自治体の規模や財政の問題はあるが、出来る範囲での取り組みを東松島市でも検討すべきと思うがいかに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>熊谷 昌崇</p>	<p>2. 消防団車両のオートマチック(AT)化を推進すべき</p>	<p>先日、東松島市消防演習が開催され、その中で、ポンプ車の行進があったが、1台の車両が3回ほどエンストする場面があった。思うに、日本では新車販売の98%がオートマチック(AT)車であり、マニュアル(MT)車を使用する機会が少ないと思われる。また、4年前のデータではあるが宮城県におけるマニュアル(MT)とオートマチック(AT)免許の取得割合は46対54である。</p> <p>平成29年3月から新免許制度に移行になり、普通免許は最大積載量2t未満、車両総重量3.5t未満の車が運転可能だが、消防庁の調べによると、全国の消防団車両は約51,300台あり、内、3.5t未満が32,100台、3.5t以上5t未満が約17,200台、5t以上が約2,000台であり、全国の車両の37.5%が現在の普通免許では運転する事が出来ない。</p> <p>そこで、全国的には、消防団員の準中型免許取得費用の補助を行っている自治体も増えてきてはいるが、根本的には普通免許で運転できる車両総重量3.5t未満で従来の消防ポンプ自動車で採用されているポンプ性能(A-2級)を確保したオートマチック(AT)車両の導入を順次検討すべきと思うがいかに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>1. 本市学力向上の現在の成果と今後の対応について</p>	<p>本市の学力向上へ向けた取り組みは、夏休みの短縮、エアコンの設置、電子黒板の設置等々と児童生徒が日々の学習に快適に取り組める環境と設備の設置に努めており、高く評価されるべきところではあるが、肝心の成果についてはまだまだ途上の感が否めない。</p> <p>本市の今後の対応を含めて以下に問う。</p> <p>(1) 今年度は大型連休等で夏季休業短縮分の授業時間が相殺されたように思料されるが、今年度内において、さらなる長期休業の短縮等、何らかの対策をとる考えはあるか。</p> <p>(2) 今年度の学力調査の結果を踏まえて各校の対応は。</p> <p>(3) 長期休業中の各校の補習等の実施状況は。</p> <p>(4) 発達障害を抱える児童、生徒に対する学力向上の考え方について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>2. 東松島オルレと県観光キャンペーン下半期との連携について</p>	<p>今年度の県観光キャンペーンキャラクターは、10月より、サザエさんからポケットモンスター（ポケモン）のラプラスに交代する。</p> <p>上半期のサザエさんでは、テレビ番組のオープニングで数秒ではあるものの大高森が紹介されるなどある程度、本市の観光に寄与したものと捉えている。</p> <p>下半期のポケットモンスターに関しては、携帯電話、タブレット端末用アプリケーションである「ポケモンGO」との連動が予定されていることは2月定例会の質問要旨で述べたとおりである。</p> <p>先行して気仙沼市や松島町、仙台市ではホテルプール等でのラプラスフロート、栗原市花山でのラプラスボートや実際にラプラスがアプリ内で出現する等し、観光地での存在感を大いに発揮している。</p> <p>他県でのポケモン関連イベントも大部分が成功裏に終わり、ポケモントレーナーの本市観光地への入込も大いに期待できることから、再度執行部へ問う。</p> <p>(1) 宮城県と株式会社ポケモンとの宮城オルレに関連させる交渉進捗を本市は把握しているか。</p> <p>キャンペーンキャラクターとして決定した段階での報道等では、宮城オルレのコースで、キャラクターが参加するイベントの計画の構想があったようである。</p> <p>(2) 市内のポケストップは増加したものの、圧倒的に数が足りない。宮城県、株式会社ポケモンに対して増加交渉の余地はあるか。</p> <p>石巻市の例では、「ポケモンGO」関連のイベントを開催した際に、イベント参加者からイベント運営者へGPS座標や写真等で、増設要望箇所等を要望、提案するなどし、増加につながったようである。</p> <p>(3) 子連れ観光に主眼を置いた今年度の県観光キャンペーンで本市上半期の子連れ観光の入込数の伸びは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>土井光正</p>	<p>1. 加速する高齢化時代に向けた自動車免許証返納による交通網整備対策および認知症対策についての取り組みを万全にせよ</p>	<p>全国的に少子高齢化は加速しており、本市においても例外ではない。高齢者が運転する車の事故も毎日のようにニュースで取り上げられており、その都度、問題になるのが車の免許証の返納が取りざたされている。しかし、免許証返納後の足の確保が出来ないため、やむを得ず運転し続けなくてはならない現実がある。また、認知症が進み徘徊する老人を抱えている家族は、そのお年寄りから目が離せず厳しい環境の中、大変な気苦労をかかえている状況である。</p> <p>厚生労働省では、2025年には認知症の人が700万人前後、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると推定されるとしている。これらのことを踏まえ次の3点について伺う。</p> <p>(1)本市では、平成21年度より、地域交通網の整備体制としてデマンドタクシーを導入しているが、免許証返納者の足の一助としての対応は十分なされているのか。また、これまでのデマンドタクシー利用者の声をどのように反映しているのか。</p> <p>(2)認知症の人を社会全体で支える仕組みづくりとして市はどのように考えているのか。</p> <p>(3)認知症の行方不明者が全国で年間1万人にもなると言われているが、本市では認知症が進み徘徊する老人家族からの申し出により、SOSネットワークに登録し万が一の徘徊に対応していると聞き及んでいる。しかし、不明者家族の通報からの対応ではなく、地域の目に期待し、協力を得て早期発見につながる「みまもりカード」等の発行による徘徊者対策を拡充すべきと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>土井 光正</p>	<p>2. 市道（砂利道）の舗装整備の推進で住みよいまちを確立せよ</p>	<p>本市における市道の舗装率は84%と聞き及んでおり、ほとんどの市道が舗装整備されているが、民家住居に至るまでの市道で、まだ未舗装の箇所も多々見受けられる。中には数十年間も舗装工事がされず、行政に不信をいただいている市民の実態もある。本市では、昨年6月にSDGs未来都市に選定され、だれひとりとしてとりのこさないことを主眼として取り組んでいる。また、東松島市が目指す2030年のあるべき姿は、「全世代に住みよいまち」としている。砂利道で雨が降るたびに水たまりができ、通行困難な道路は、地域住民にとって果たして住みよいまちといえるのかどうか疑問である。</p> <p>これまでは、震災復興工事により重点的に整備してきたことは理解できるが、今後は、地域インフラとしての未舗装の道路対策も重要であり、早急に整備すべきと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>土井光正</p>	<p>3. 国産乳児用液体ミルクを災害備蓄食品として配備せよ</p>	<p>開封して哺乳瓶に移し替えるだけですぐに飲める乳児用液体ミルクが、国会で承認され、今年3月から国産液体ミルクの販売が始まっている。液体ミルクは常温で保存でき、蓋を開けて吸い口を装着すればすぐに飲めるため、夜間や外出時の授乳が容易になるとのことで「育児の負担が軽くなる」「粉ミルクと違い使い勝手が非常に良い」と子育て世帯を中心に喜ばれている。また、全国の各自治体では、災害時の備蓄品としても注目を集め導入が始まっている。災害時の緊迫状況から考えると、災害時にも有効で乳幼児を持つ親の安心につながるため本市においても早期に導入すべきと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第7位</p> <p>小野幸男</p>	<p>1. 今後のまちづくりについて</p>	<p>平成17年度より取り組んでいる市民協働のまちづくりも、平成21年度からは各地域自治組織が指定管理者となり、地域自治活動の拠点施設として有効利活用が図られている。</p> <p>前市長の肝入りの政策でもあったが、私なりには見直しも踏まえ、検証の時期と思料されるが、今後の取り組みについて市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 震災当初には宮戸地区と野蒜地区との統合も視野にまちづくりの声もあった。今後の財政負担を考慮したうえで、現在は世帯数も大幅に減少した宮戸市民センターと野蒜市民センターとの統合についての妙案があれば伺う。</p> <p>(2) 年々増加すると見込まれる運転免許証の返納に対応すべき対策も兼ね備えた事業として、野蒜・宮戸地区をモデル地区として、デマンド交通の拡充や運転免許証返納者への助成券等を発行する考えについて伺う。</p> <p>(3) 今後、懸念される8地域への予算であるが、現状維持で推移できるのか。また、予算増が見込まれるのか。各地域担当職員を配置したが、現状はどのように取り組まれ、問題解決と地域担当職員との意志の疎通を図っているのか伺う。</p> <p>(4) 「地域のことは地域で」として始まった自治会制度であるが、その中で自治会長について、当初は区長報酬の削減策の一環でもあったと記憶しているが、位置付けとしては地区の代表的存在でもある。報酬も自治会ごとに決めることが可能だが、区長制度のように市長の委嘱による対応が会長としての地域の信頼とまちづくりの発展にも寄与されると思うが市長の考えを伺う。</p> <p>(5) 来年春にはようやく奥松島運動公園も完成の運びとなり、東名運河の護岸も整備される。野蒜・東名地区は最大の被災地でもあり、鎮魂の思いも込め、震災復興メモリアルパーク(東日本大震災復興祈念公園)・震災復興伝承館を拠点に東名運河にて灯籠流しを来年の夏にも開催すべきと思われるが市長の切なる思いを伺う。</p>

(6) 亀岡地区に残された学習等供用施設は、地区住民の大切な拠点施設でもあるが、整備されないまま 8 年以上経過しているが、今後の計画について伺う。

【答弁を求める者 市長】

氏名	件名	要旨
<p>第7位</p> <p>小野幸男</p>	<p>2. 防災課所管について伺う</p>	<p>震災から9年目に入り、過去を振り返ると10年に一度くらいの割合で災害に見舞われてきたように思料される。「災害は忘れず、必ずやって来る」と常に自分に言い聞かせながら災害対応を心がけている。危機管理監も配置したが、災害への心構えに希薄さを感じられるので以下について伺う。</p> <p>(1) 危機管理監の最大の業務と職員とのコミュニケーションは万全か。</p> <p>(2) 観光物産センターを震災復興伝承館内にあったファミリーマートの撤退後の活用と提案したが、「震災復興伝承館の充実を図り一体的に取り組む」とのことであった。しかし、いまだに充実には至っておらず、閑散としたままである。奥松島公社の資材置き場なのかも思われるので、いつまでを目処に万全の体制に入るのか伺う。</p> <p>(3) 災害時にはいろいろな予期せぬ事態が発生するが、震災復興で需要が増した土取り場(新田・大塩地区)の広大な跡地の災害時の利活用策があれば伺う。</p> <p>(4) 消防団員の確保対策と、企業の消防団活動の理解度は進捗しているのか。また、今回、東松島消防署消防フェスタも開催されたが、敷地内東側の芝生の用地は以前、消防演習時の練習場所としての活用が検討された経緯があったが、今後は、防災公園等を含めた活用策についてあれば伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>滝健一</p>	<p>1. 子供の健全な成長のために</p>	<p>今日の子供の環境を巡ると、健全な成長に関わる課題が多発する傾向にある。いじめや庇護すべき親による虐待、ネット依存、貧困や自ら命を絶つ子供の問題等々、特に都市部において顕著である。この現実の広がりは国会や地方議会の議論を動かしている。しかし、「いじめ防止対策推進法や条例の制定」とか「虐待防止法の整備」「親の体罰禁止の法制化」といった取り締まりや法規制の文言だけが先走りしているように思える。</p> <p>このような傾向が都市部から各地に広がるのが懸念される。本市では、心配の必要がない課題についても、その対策を念頭に置くべきである。</p> <p>これらの現実を踏まえ、次の点について伺う。</p> <p>(1) 学校では、いじめなど発生しにくい環境づくりの追及が大切である。このための努力や模索についての方。</p> <p>(2) 全国の児童相談所が児童虐待の相談通告を受けて対応した件数は毎年連続して増加しており、2018年度は実に15万9,850件に上った。子供の前で家族に暴力を振るう「面前DV」などの心理的虐待が10年間で9.7倍となり、全体の55.3%を占めるようになった。「虐待しない」「させない」意識を親に根付かせる根本的な取り組みこそが重要である。どのように取り組んで行くか。</p> <p>(3) 今年のWHOの会合で「ゲーム障害」が正式に病気として認定された。色々なゲームにのめり込み、日常生活や健康に支障を来すことが、病気として国際的に認められた。諸外国ではゲームをやり続け、死亡してしまう若者が出ることもあった。今回の認定をきっかけに、種々対策を講ずる自治体が出てきた。本市としては、どのように受け止めているか。</p> <p>(4) 都道府県を対象としてきた子どもの貧困対策計画策定の努力義務を市町村にも課す、改正子どもの貧困対策推進法が6月に成立した。その後政府は、来年度子供の貧困に関しての初の全国調査を実施する方向で調整に入った。家では、保護者の多忙でほとんど一人で過ごさなければならない子供たちが、どうしたら「早寝・早起き・朝ごはん」ができ、学びに気持ちが向かっていけるか。貧困世帯の子供に対する教育の機会均</p>

		<p>等をどう保障するのか極めて重要である。本市の現状をどのように把握しているか。</p> <p>(5) 自ら命を絶つ子供の報道が後を絶たない。いかに、SOSを見逃さず、救いの手を差し伸べるのか、とても大切である。どのように認識されているか。</p> <p>(6) 熱中症と災害の対策に、飲み物や栄養食品の自動販売機を導入する公立小・中学校が増え始めてきた。本市での状況はどうか。</p> <p>(7) プラスチックごみの削減が世界的な問題となっている中、学校でのストローの使用が議論されるようになった。本市での使用状況は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>
--	--	--

氏 名	件 名	要 旨
<p>第9位</p> <p>熱海 重徳</p>	<p>1. JR東矢本駅における諸課題について</p>	<p>JR東矢本駅の利便性の課題について、これまでも要望を重ねているが、いまだ改善はみられず、周辺地域からも不満や疑問の声が多くあがっている。</p> <p>そこで、現在の進捗、将来的な見通しについて以下の点を伺う。</p> <p>(1) JR仙石線の増便および停車駅の改正について。</p> <p>(2) JR東矢本駅の北側出入口の整備について。</p> <p>(3) JR東矢本駅の周辺整備について(道路、踏切等)</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>櫻井 政文</p>	<p>1. 子供の貧困対策について</p>	<p>政府が5年ぶりに改定する「子供の貧困対策に関する大綱」の見直しを議論する内閣府の有識者会議は、本年8月7日、子供の貧困解消に向けた施策のあり方を公表した。政府は提言を踏まえ、今年度末までに新たな大綱を閣議決定する。</p> <p>提言のポイントとして「自治体による貧困対策の計画策定や取り組みの促進」が明記されている。</p> <p>子供の貧困が放置され、大人になってからの所得が下がると次世代の子供の貧困が増加してしまう。経済格差は教育格差につながるため、貧困が世代を超えて連鎖してしまうのである。</p> <p>子供の貧困は見えにくいだが、わが国の子供の貧困率は16.3%(2012年)で6人に1人が貧困状態にある。貧困による低学力、少年犯罪の増加や将来的には低所得による結婚や出産への悪影響などが懸念される。</p> <p>子供の貧困を解消することは、大変重要で急がれる行政課題である。</p> <p>有識者会議の提言を踏まえて当市では今後、どのように「子供の貧困対策」に取り組むのか、以下、所見を伺う。</p> <p>(1) 当市における「子供の貧困」の現状把握について。</p> <p>(2) 学校との連携をどのように図るのか。</p> <p>(3) 子供食堂への支援についての考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>櫻井 正文</p>	<p>2 . 小中一貫教育について</p>	<p>令和元年第2回定例会で志小田教育長は、今後の市教育行政のあり方について、歴代教育長の基本方針を踏襲すると表明したが、小中一貫教育については、自身のカラーを打ち出すとの抱負を述べた。</p> <p>そこで本会派（松桜会）は、先般、小中一貫教育で先進的取り組みを実施している埼玉県入間市に行政視察を行った。</p> <p>入間市での視察内容を基として、以下の所見を伺う。</p> <p>(1) 教育長が考える小中一貫教育のあるべき姿とは。</p> <p>(2) 小中一貫教育のメリットとデメリットは。</p> <p>(3) 当市では、具体的にはどのような形で小中一貫教育を実施するのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>1. 夏まつりの今後の在り方について</p>	<p>市長は、東松島市鳴瀬流灯花火大会、東松島夏まつりおよび松島基地航空祭を本市の「3大まつり」として捉えていると聞いた。</p> <p>今年は、この「3大まつり」は、天候にも恵まれ、例年になく多くの観光客でにぎわった。特に、東松島夏まつりと松島基地航空祭については、「めざせ日本一の夏まつり」と銘打っての、素晴らしいまつりであったと思う。</p> <p>東松島夏まつりは、実行委員会で主催しているが、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 市は後援という立場で関わっていたが、今後どのように実行委員会と関わっていくのか。</p> <p>(2) 昨年と比べ観光客も大幅に増えたが、より安全に通行、花火観賞できるように、警備上改善した方がよいと感じた点はあったか。</p> <p>(3) 今回の経済効果を市はどのように把握しているのか。</p> <p>(4) 成功裏に終わったと感じているが、結果的に見て、スケジュールを工夫することで、観光客がよりまつりを存分に楽しめると感じた点はあったか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>2.「ランドセル重過ぎ問題」について</p>	<p>平成30年9月6日付、文部科学省から、都道府県の教育委員会等に対し、児童生徒が登下校時に持ち運ぶ教科書、教材、学用品の重さや量に配慮するようという事務連絡が出された。</p> <p>このことに対し、本市の各学校の児童・生徒の携行品の重さや量、「置き勉」の状況、その取り組みについて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第12位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 子育て世帯の国民健康保険税の負担軽減について</p>	<p>国民健康保険税の均等割は、社会保険等にはない加入者一人一人にかかるもので、収入の無い子供についても一律に人数分の賦課が行われる。</p> <p>そのことで、特に子育て世帯の保険税負担が大きくなっていることは、以前から問題とされている。</p> <p>他の保険では子供が何人いても保険料は同じであり、こうした他の保険とのバランスを考えても、子育て世帯の国保税は軽減するべきとの考えのもとに、独自に子育て支援を目的に税賦課を減免する自治体が増えている。</p> <p>新聞報道によれば、全国25自治体で取り組まれている。仙台市も今年度から、世帯を構成する18歳未満の子供一人につき均等割額の3割相当分の減免を実施している。</p> <p>また、全国知事会でも国に対して、子供にかかる均等割保険料の軽減措置の導入を要望しているとの情報も得ている。</p> <p>そこで伺うが、本市の国保加入者数および世帯数、また18歳未満の加入者数および世帯数はどのようになっているか。一方で、このうち法定軽減対象となっている18歳未満の加入者数および世帯数はどのようになっているのか。</p> <p>改めて本市でも、子育て世帯の保険税の独自減免の検討を行うことを提言する。仮に仙台市と同様の減免を実施した場合、一人当たり年間いくらぐらいの減免となり、子育て世帯の平均の軽減額はどの程度になるか。また、必要とされる財源はどのぐらいの金額になるのか、当局の分析と軽減施策への見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>阿部勝徳</p>	<p>1. 本市農業の諸課題について</p>	<p>本市の農業については、東日本大震災による津波により、農地の約43.7%、1,465haが津波により浸水し、農業施設も甚大な被害を受けた。しかしながら、国・県の手厚い支援により、復旧、復興事業が順調に進んできた。大区画のほ場整備が進み、震災前、11の農業法人だったものが、現在は20法人以上となり、農地の集約化が進み、耕作面積が100haを超える大規模法人も誕生している。このことは、まさに国の進める農業政策に合致しており、夢のもてる東松島市の農業推進が図られると大いに期待をしている。</p> <p>4年前、同様の質問をしているが改めて以下について伺う。</p> <p>(1) 米について、国では令和5年までに全農地面積の8割を担い手に集約し、担い手の米の生産コストを60kgあたり16,000円(平成23年全国平均)から4割削減するとされている。前回、コスト削減には農地集積や、直播栽培などを推奨すべきとの意見を述べたが、4年前に比べどの程度進んだのか伺う。</p> <p>また、国では農業の労働力不足やコストの削減に、ロボットやICT技術を活用したスマート農業を推進するとしているが、本市での取り組みと今後の展望について。</p> <p>(2) 前回、生産性や作業効率の悪さから、山間の奥地などでの耕作放棄地の拡大への懸念と、その対策について質問をしたが、平成27年当時、「市内で耕作放棄地としてカウントされている水田は、大塩地区25.8ha、上下堤地区3.8ha、川下地区2.3ha。今後は、条件不利地域に適した作物の導入や地域の担い手と相談しながら地域に合った解消策を講じていく」との答弁をいただいた。農業委員会では再生を希望しない耕作放棄地の農地からの地目変更を進めているが、耕作放棄地の現状と今後の対策について。</p> <p>(3) 農業経営能力向上対策として、特に震災後設立した法人について、宮城県で設置した「地域農業高度化支援チーム」と連携しながら支援していくとのことだっ</p>

		<p>たが、現状について。</p> <p>(4) 全国的に農業の担い手不足が心配されているが、本市の現状と今後の担い手確保対策について。</p> <p>【答弁を求める者 市長】</p>
--	--	--

氏 名	件 名	要 旨
<p>第13位</p> <p>阿部勝徳</p>	<p>2. 名水「太郎坊清水」の復元を</p>	<p>本市には、数多くの史跡があり、観光や教育施設として、市内外の人々が訪れている。</p> <p>その史跡の一つに、太郎坊清水(別名一杯清水)がある。昔から深谷地域の名水として知られ、旧気仙道のほとりに位置していることから「のどが渴けば一杯清水」と謳われ、旅人たちの、のどを潤してきたとされている。</p> <p>平成10年9月、県により太郎坊清水を含む周辺が整備され「太郎坊清水公園」が開園された。以降、周辺住民が除草や清掃などの管理をし、多くの人々に利用されてきた。</p> <p>数年前、湧水の上部が風化及び草木の根の伸長によると思われることが原因で、一部が崩落し、危険防止のため、現在は立ち入りを禁止している。</p> <p>歴史ある名水に人々が集う公園として、早期に復旧整備すべきと考えるが、いかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第14位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>1. 人口減少対策と商店街活性化について</p>	<p>本市においては、大型店の進出による既存の商店街の衰退が久しく、街の活性化をいかにすべきか問題だ。また、後継者・担い手不足が拍車をかけ、活気を失っている。航空祭等の一時的なイベントで盛り上がりを見せるものの、恒常的なにぎわいに結びつくには遠いものだ。</p> <p>本市における人口減少対策の一環の施策として、移住定住を促進する空き家バンク施策があるが、上手く機能していない現状である。住まいと移住者の職を連動する施策が必要と考える。</p> <p>人口減少対策と商店街の活性化についての所見を問う。</p> <p>(1) 空き家バンクと空き店舗対策を連動させた施策として、空き店舗補助事業の創設について。</p> <p>(2) 商店街の活性化のための担い手施策を講じるべきではないか。</p> <p>(3) 奥松島公社を活用したパイロット事業（空き店舗を奥松島公社が、初期開発し、店舗経営の後継者を育てる等）を導入するのはいかがか。</p> <p>(4) 長期的な矢本駅周辺の再開発計画策定の考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第15位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1. 事後審査型入札方式による事務の合理化を提案する</p>	<p>(1) 本市の一般競争入札における事務処理について、入札公告から落札者の決定まで事前審査型を採用している。しかし、最近の応札状況を見れば、10者あるいは多いときには15者の入札参加がある。</p> <p>これでは、事前の全者資料を少数で審査するには、大きな事務的負担が生じ、遺漏のない審査も難しいと思われる。</p> <p>地方公務員法にある服務規定には、「注意力のすべてをその職責に遂行するために用い」となっているが、人間がやることであり、時には誤りがあることは否めない。それを極力少なくするために、あるいは事務処理の合理化のため、標記の事後審査型入札方式を提案したい。</p> <p>これは、公告後の入札書（価格と技術提案）と競争参加資格確認資料によって、価格だけを開封し、少数の予定価格以下の応札者の参加資格を確認した後に、技術力の審査・評価を行い、総合評価により契約の相手方を決定する方式であるが、市長の所見はいかに。</p> <p>(2) 標題に関連し、かつて、宮野森小学校の建設工事にあたり、期間内の完工が危ぶまれる。あるいは施工能力等に問題があるとして、議会特別委員会が設置され、全会一致で否決された事案があった。</p> <p>議会の意志として「入札の際の事前調査不足」等を指摘され、「一連の対応の検証をすべき」との主旨の意見が議場において表明されていたはずであるが、その後、どのような善処がなされたか。所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第15位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>2. SDGsに関連して、災害買取元地の活用を提案する</p>	<p>飽食日本と言われる今日。一方、地球上では、一日の糧に事欠く国も多く存在し、先進地と開発途上国の間の貧富の差は益々拡大している。</p> <p>SDGsの大きな目標として、全世界で貧困を解消し、食料難など人間が生活するうえで、最も基本的なニーズを満たすことが、まず解決すべき課題とされている。</p> <p>そこで、標記の未活用空き地の活用として、大豆、麦などの作物を栽培し、援助物資として、アフリカなどの地域に送ったらどうであろうか。</p> <p>そのノウハウについては、国際協力機構（JICA）など複数の組織を活用できる。栽培のマンパワーはボランティア、様々な組織に呼び掛ける方法もある。SDGs未来都市選定自治体として、東松島市の全国発信も可能と提案するがいに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>